土屋和雄理工学部教授が「はやぶさ」プロジェクトチームで朝日賞を受賞

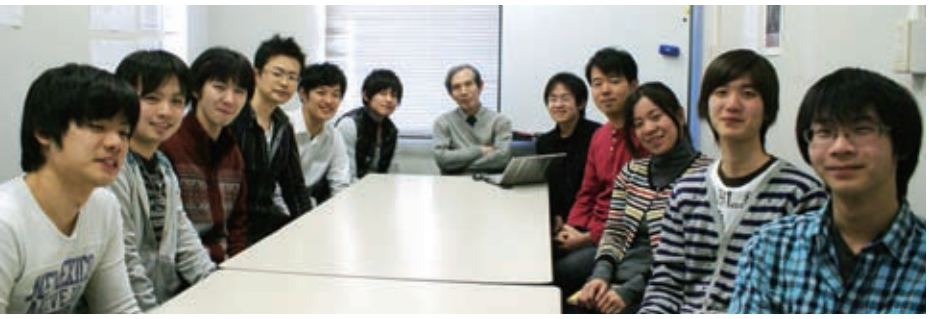
1月1日、学術や芸術などの分野で傑出した業績をあげた個人・団体に贈られる2010年度朝日賞が、小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトチームの一員である本学理工学部の土屋和雄教授に贈られた。プロジェクトにおける学術界代表としての功績を評価されての受賞である。

「はやぶさ」プロジェクトの大きな目的は、地球の引力圏を離れて宇宙を航行し、小惑星イトカワに着陸してその表面の物質のサンプルを地球に持ち帰ることであった。つまりこれまで片道の旅であった惑星間航行を往復旅行にすること、そしてその表面から物質のサンプルを採取することである。土屋先生は、宇宙工学、宇宙科学の研究者達と共同して、主として2つめの「サンプルの採取」という課題の研究に注力された。2003年5月9日、宇宙科学研究所が鹿児島県内之浦宇宙空間観察所から打ち上げた小惑星探査機はやぶさは、当初2006年に帰還予定であったが、燃料漏れやエンジン故障、行方不明になるなどのトラブルを乗り越え、2010年6月13日、7年間で約60億キロにおよぶ宇宙の旅を経て地球への帰還を果たした。

「はやぶさ」プロジェクトは、1980年代の中頃、全国の大学の宇宙工学の研究者が、宇宙科学研究所に集まり開始した宇宙探査のための基礎的な共同研究が出発点となっている。この研究コミュニティを母体として、1996年に正式にプロジェクトが発足、2003年に打ち上げとなった。着想から25年、当初20～30代だった若い研究者達も、プロジェクトの中で経験を積み、現在は研究の第一線で活躍する研究者となり、各地の大学で宇宙工学の基礎研究とともに後進の指導にあたっている。土屋先生は、この「はやぶさ」プロジェクトの中で多くの研究者が育っていったことを、「はやぶさ」プロジェクトの大きな成果の一つとして高く評価されている。

「最近は、とかく華やかな成果だけに光が当てられることが多いが、それだけでは学問は進歩もしないし、深まりもしない。地道な努力を重ねて自らを鍛えることによって学問は進む。そういう意味で、今回の受賞は、『はやぶさ』を開発しその運用に努力された方々とともに、それを支えてきた研究者の地道な活動が評価され褒章されたことを大変うれしく思っています」

研究は、それが世界最先端の研究であるほど、成功の可否が未知数となり、かつ具体的な成果が出るまでの時間が長くなりがちである。事業仕分け（行政刷新会議）での「2位では駄目か」発言が話題になったが、具体的な成果の見えにくい基礎研究には予算がつきにくいのが現状だ。多くの科学者たち同様、土屋先生は「科学研究は海図を持たずに新大陸を目指して荒海に乗り出していくようなもの。本来的に効率を求めるものではなく、未知の世界に憧れと夢を持った研究者の情熱によって進められる」と話されたが、今回の「はやぶさ」の帰還は、失敗を恐れず研究を主体的に粘り強く進めていくことが、いかに重要であるかを端的に示しているのではないだろうか。



先生は2008年度から理工学部エネルギー機械工学科に在籍。次世代の宇宙探査の主役と目される、月や惑星など未知な環境を自律的に移動し探査する惑星探査ローバーの研究開発とともに、その基礎研究として動物の歩行運動の解析、歩行ロボットの運動制御をテーマに研究に励みながら、教壇では制御工学などを熱心に教えておられる。「宇宙工学研究には、機械工学、電気・電子工学や情報工学の最先端の知識と深い理解が必要です。宇宙開発を志す学生は、大学でこれらの工学分野をしっかりと学び腕力を鍛えて、宇宙開発へチャレンジすることが、『急がば回れ』近道でしょう」。土屋先生には今後とも大いに学生たちを厳しく指導し、何事にもチャレンジングでタフな人物に成長させていただきたい。そして、同志社大学からも宇宙の夢を実現できる次代の研究者・技術者がたくさん巣立っていってほしいものである。

（広報課）

※JAXAおよび同志社大学土屋研究室のホームページをご参照ください。
http://www.jaxa.jp/
http://engineering.doshisha.ac.jp/kenkyu/labo/mech/me_17/index.html

「同志社キャンパスフェスタ」を全国7会場で開催

『同志社』に出会う。「志」にふれる。』をキャッチフレーズに、10月3日東京、10月9日金沢、10月23日松山、11月3日福岡、11月14日松江、11月20日盛岡、11月21日福島において同志社キャンパスフェスタを開催し、在学生ご父母、高校生や卒業生など多くの方にご参加いただきました。

プログラムは八田英二学長による同志社の近況報告から始まり、会場により佐藤優氏(作家・元外務省主任分析官、1985年神学研究科修了)、真山仁氏(小説家、1987年法学部卒)、加藤千洋氏(本学グローバル・スタディーズ研究科教授、元朝日新聞社編集委員)の3人の講師による講演を実施。引き続き、各部屋に分かれてのキャリア支援説明や入試説明、学部教職員による個別相談など、多彩なコーナーを設けました。

今年度は開催県出身の在学生が参加して、地元の後輩である高校生からの学生生活相談に熱心に応じていました。また、キャンパスライフの紹介DVDでは、彼ら自身がキャンパスを案内し、クラブ・サークル活動、教室や食堂、下宿での生活を紹介。学生の視点からとらえた現在の同志社大学の様子は、卒業生や高校生に強い印象を与えました。

交流交歓会では、在学生父母や卒業生の方々が学長や教職員と談笑する姿があちらこちらで見られ、他のイベントとは一味違った雰囲気を楽しんでおられました。また全会場ではなかったものの、同志社交響楽団、グリークラブ、ギタークラブの演奏が一層の彩りを添えました。

キャンパスフェスタ開催にあたっては、特に開催地の校友会支部の皆様には多大なご協力をいただき、お礼を申し上げます。

(校友・父母課)

メジャーリーガー西岡剛選手が来学!

1月14日、スポーツ健康科学部の専門科目「スポーツ・トピックス1」(博報堂DYメディア・パートナーズ寄附講座)の最終講義に、昨年プロ野球界で大活躍して千葉ロッテマリーンズを日本一に導いた立役者、西岡剛氏(米国ミネソタ・ツインズ)が登場。世界に挑戦する一流アスリートの貴重な特別授業では、リーグ3位からの日本一という史上初の快挙の際のエピソード、メジャーリーグ挑戦の経緯や抱負などが、時折笑いも交えながら語られた。「反骨精神で何事にも立ち向かうのが生き方」という西岡氏から送られた多くのアドバイスに、約350名の学生たちは熱心に耳を傾けていた。

(スポーツ健康科学部)

特定寄付奨学金募金協力者ご芳名

経済的理由で修学を続けることが困難になっている学生を援助するために、2004年4月から「同志社大学特定寄付奨学金募金」を広く社会各界に呼びかけています。2011年1月末までに、卒業生、ご父母、一般の方々および教職員から以下のとおりご協力をいただきました。

2010年3月～2011年1月の申込者

	申込件数	申込額
卒業生ご父母一般	87件	4,991,920円
教職員	45件	3,068,000円
合計	132件	8,059,920円

ご芳名(敬称略、順不同)

【卒業生、ご父母、一般】

500,000円　財団法人吉田育英会
300,000円　株式会社バン・ネット・システム　市川 稔晃
同志社校友会
290,000円　森田 秀夫
150,000円　佐藤 茂
100,000円　株式会社ヒーローインターナショナル
饗庭 健介　本田 正明
50,000円　笹本 勝三郎　三原 誠治　住谷 祐子
46,000円　同志社45東京クラブ
30,000円　西川 晃司　石井 穎一郎　川向 幹男
同志社大学体育会アメリカンフットボール部OB会
浜田 幹子　淺井 万富
20,000円　今村 浩一　川野 修平　中村 顯
15,000円　山中 光太郎　楠田 智昭
13,000円　徐 勉淑
10,000円　鯨岡 衛　佐藤 信夫　若栗 淳　小合 洋一
小田 邦宏　松本 邦博　上西 幹男　森口 彰
水谷 晴夫　石井 康史　津島 里奈　田村 勇治
嶋本 隆雄　藤原 東　畠中 典子　冨岡 努
平岡 敏雄　豊田 俊一　本田 肇
5,000円　和田 忠夫
1,000円　河嶌 哲也
ご芳名のみ(金額非掲載)
嵜原 正治　成田 賢二　北山 淳一　河村 竜志
柴田 博昭　幡山 玲子　山田 久敬　樺澤 靖夫
大友 有介　藤原 喜久雄　中林 孝直　吉田 正彦
稲田 圀昭　永田 尚路　宮本 聡　川村 修一
中野 和子　末永 大志　安宗 健志　花園 堅二
角 裕　紀本 武彦　隅田 尚武　窪川 和雄
松田 俊文　落合 登美雄　長嶋 啓介
773,000円(匿名合計)　匿名14名

【教職員】

300,000円　三上 保孝
150,000円　工藤 和男
120,000円　齋藤 憲道
100,000円
冨田 安信　宇治郷 毅　石田 修一
60,000円　西川 真司　三好 博昭
24,000円　今川 晃
12,000円　北 幸史
5,000円　植村 巧
ご芳名のみ(金額非掲載)
兼重 雅好　新 茂之　髙田 紀美　藤井 邦宏
越川 弘英　林 克樹　上田 裕保　宮庄 哲夫
戸田 裕之　ダリシエ ミシェル　里内 仁美
1,063,000円(匿名合計)　匿名23名

＊教職員については2013年度まで申込を受け付けていますが、今回は2010年度寄付額(2010年4月～2011年3月)のみの金額を掲載しています。

当募金は継続的に行っていますので、引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申しあげます。

【お問い合わせ先】財務部資金課
TEL：075-251-3150
e-mail：ji-sikin@mail.doshisha.ac.jp

新任教員紹介

授業科目を担当する専任教員を紹介します。
①所属(学科)　②職名　③主な担当科目

瀬岡 直
(せおか なお)
①法(法律)
②助教
③リーガル・リサーチ

坂田 雅夫
(さかた まさお)
①法(法律)
②助教
③国際組織法

綾部 六郎
(あやべ ろくろう)
①法(法律)
②助教
③リーガル・リサーチ

森 靖夫
(もり やすお)
①法(政治)
②助教
③現代日本政治史

原田 隆史
(はらだ たかし)
①社会(教育文化)
②准教授
③図書館・情報学概論

Simon HUMPHRIES
(サイモン ハンフリーズ)
①文(英文)
②助教
③Communicative English Skills A I

水越 知
(みずこし とも)
①文(文化史)
②助教
③東洋史特論(1)

辻村 元男
(つじむら もとお)
①商(商)
②准教授
③オペレーションズ・リサーチ

米崎 克彦
(よねざき かつひこ)
①経済(経済)
②助教
③数理解析1

塩津 ゆりか
(しおづ ゆりか)
①経済(経済)
②助教
③財政・金融政策1

菅原 千織
(すがわら ちおり)
①経済(経済)
②助教
③基礎ゼミナール

奥田 以在
(おくだ いあり)
①経済(経済)
②助教
③近代京都都市史総論1

小田 勇一
(おだ ゆういち)
①経済(経済)
②助教
③基礎ゼミナール

三俣 延子
(みつまた のぶこ)
①経済(経済)
②助教
③基礎ゼミナール

奥村 直毅
(おくむら なおき)
①生命医科(医工)
②助教
③医工学応用実験

新國 裕昭
(にいくに ひろあき)
①理工(エネルギー機械工)
②助教
③線形代数学Ⅱ

荒尾 与史彦
(あらお よしひこ)
①理工(機械システム工)
②助教
③材料力学Ⅰ

藤原 弘
(ふじわら ひろし)
①理工(機械システム工)
②准教授
③工業材料Ⅰ

横田 耕祐
(よこた こうすけ)
①商(商)
②助教
③アカデミック・リテラシー1

陶 静
(たお じん)
①商(商)
②助教
③アカデミック・リテラシー1

村井 明彦
(むらい あきひこ)
①商(商)
②助教
③アカデミック・リテラシー1

内田 尚孝
(うちだ なおたか)
①グローバル・コミュニケーション(グローバル・コミュニケーション)
②准教授
③基幹中国語Ⅰ講読

竹田 宗継
(たけだ むねつぐ)
①グローバル・コミュニケーション(グローバル・コミュニケーション)
②准教授
③Progress in Writing

窪田 光男
(くぼた みつお)
①グローバル・コミュニケーション(グローバル・コミュニケーション)
②准教授
③Progress in Reading

山森 良枝
(やまもり よしえ)
①グローバル・コミュニケーション(グローバル・コミュニケーション)
②教授
③日本語の構造1(統語・形態)

日野 みどり
(ひの みどり)
①グローバル・コミュニケーション(グローバル・コミュニケーション)
②教授
③基幹中国語Ⅰ作文

早樫 一男
(はやかし かずお)
①心理(心理)
②教授
③臨床心理学実習

石川 信一
(いしかわ しんいち)
①心理(心理)
②准教授
③学校カウンセリング

松山 隆英
(まつやま たかひで)
①司法(法務)
②教授
③経済法Ⅰ

松本 哲治
(まつもと てつじ)
①司法(法務)
②教授
③公法講義Ⅰ(人権)

野口 久美子
(のぐち くみこ)
①アメリカ研究所
②助教

厳 善平
(げん ぜんへい)
①グローバル・スタディーズ(グローバル・スタディーズ)
②教授
③アジア経済論

Paul CARTY
(ポール カーティ)
①グローバル・コミュニケーション(グローバル・コミュニケーション)
②助教
③Preparation for TOEFL

楊 華
(よう か)
①グローバル・コミュニケーション(グローバル・コミュニケーション)
②准教授
③Communicative Skills in Chinese Ⅰ

須藤 潤
(すどう じゅん)
①グローバル・コミュニケーション(グローバル・コミュニケーション)
②助教
③日本語コミュニケーション1

徐 潤純
(そ ゆんすん)
①日本語・日本文化教育センター
②准教授
③日本語1(総合1Ⅵ)

李 長波
(り ちょうは)
①日本語・日本文化教育センター
②准教授
③日本語1(総合1Ⅵ)

松本 秀輔
(まつもと しゅうすけ)
①日本語・日本文化教育センター
②准教授
③日本語1(総合3Ⅲ)

Matthew LARKING
(マシュー ラーキング)
①言語文化教育研究センター
②助教
③イングリッシュ・プラクティクム1

小川原 宏幸
(おがわら ひろゆき)
①言語文化教育研究センター
②助教
③ハングル応用1

園田 賢治
(そのだ けんじ)
①司法(法務)
②准教授
③民事法演習Ⅴ

大中 有信
(おおなか ありのぶ)
①司法(法務)
②教授
③民法講義Ⅲ(契約法Ⅰ)

退職教員

2011年3月31日付で、次の先生方が退職されました。

- 神学部　中田 考　教授
- 文学部　Casilda E.LUZARES　教授
- 社会学部　西脇 常記　教授
- 社会学部　中村 百合子　准教授
- 法学部　梅津 實　教授
- 法学部　建林 正彦　教授
- 法学部　原田 伸一朗　助教
- 法学部　池田 晴奈　助教
- 商学部　本田 康二郎　講師
- 商学部　木村 公一　講師
- 商学部　滝西 敦子　助教
- 政策学部　山口 洋典　准教授
- 理工学部　藤本 元　教授
- 理工学部　今井田 豊　教授
- 理工学部　伊藤 靖彦　教授
- 理工学部　上野谷 敏之　教授
- 理工学部　伴 貴彦　助教
- 司法研究科　前田 達明　教授
- 司法研究科　上北 武男　教授
- 司法研究科　石田 剛　教授
- 司法研究科　福永 有利　特別客員教授
- ビジネス研究科　林 廣茂　教授
- ビジネス研究科　牧戸 孝郎　教授
- 言語文化教育研究センター　小池 一郎　教授
- 言語文化教育研究センター　能口 盾彦　教授
- 言語文化教育研究センター　石井 泉美　准教授
- 歴史資料館　辰巳 和弘　教授

Colin DAVIS
(コリン デービス)
①国際教育インスティテュート
②准教授
③Japanese Economy in Globalization

米澤 昌子
(よねざわ まさこ)
①日本語・日本文化教育センター
②助教
③日本語1（語彙Ⅶ）

佐藤 紀美子
(さとう きみこ)
①日本語・日本文化教育センター
②助教
③日本語1（総合2Ⅵ）

本岡 拓哉
(もとおか たくや)
①人文科学研究所
②助教

Gill STEEL
(ジル スティール)
①国際教育インスティテュート
②准教授
③Public Policy in Contemporary Japan

本学教員の執筆図書の紹介

図書館調べ（価格は税別）

なぜ「大学は出ておきなさい」と言われるのか－キャリアにつながる学び方
浦坂純子 著　筑摩書房　760円

サステナビリティの政策と経営
室田武 他 執筆　晃洋書房　2,900円

改訂版いのちとすまいの倫理学
工藤和男 著　晃洋書房　1,900円

開発援助がつくる社会生活
宮地隆廣 他 著　大学教育出版　2,400円

民事法Ⅲ第2版債権各論
川嶋四郎 他 執筆　日本評論社　4,000円

EU－欧州統合の現在
鷲江義勝 瀬領真悟 他 執筆　創元社　2,800円

家族
岡野八代 他 執筆　岩波書店　2,000円

ユニクロ型デフレと国家破産
浜矩子 著　文藝春秋　850円

株主間の公平と定款自治
松尾健一 有斐閣　5,200円

イギリス文化入門
下楠昌哉 他 編執筆　三修社　3,400円

アメリカ文化入門
下楠昌哉 他 編執筆　三修社　3,400円

初年次教育でなぜ学生が成長するのか
山田礼子 他 執筆　東信堂　2,800円

新・犯罪報道の犯罪
浅野健一 著　講談社　544円

言語運用のダイナミズム
崎田智子 他 著　研究社　3,000円

金融商品取引法制の現代的課題
川口恭弘 他 編執筆　日本証券経済研究所　2,500円

中国とアメリカと国際安全保障
浅野亮 村山裕三 毛利亜樹 他 執筆　晃洋書房　3,200円

食べる
青山謙二郎 著　二瓶社　600円

組織変更，合併，会社分割，株式交換等（1）
森本滋 他 編執筆　商事法務　5,500円

経済法第5版
瀬領真悟 他 執筆　法律文化社　3,100円

ケースブック労働法第6版
土田道夫 他 編著　弘文堂　4,200円

相談援助の基盤と専門職
木原活信 小山隆 黒木保博 他 執筆　ミネルヴァ書房　2,400円

M&A判例の分析と展開Ⅱ
森本滋 伊藤靖史 他 執筆　経済法令研究会　3,800円

戦略経営論
近藤まり 他 訳　センゲージラーニング　3,700円

日本におけるドイツ
水谷誠 他 執筆　新教出版社　2,600円

社会学事典
丸善　20,000円

概説国際物品売買条約
高杉直 野々村和喜 他 執筆　法律文化社　3,800円

グローバル化する文化政策
河島伸子 他 編執筆・訳　勁草書房　3,600円

思想と文化
岡野八代 他 執筆　明石書店　4,800円

生－生存・生き方・生命
岡野八代 他 執筆　岩波書店　2,000円

イスラムの怒り
内藤正典 著　集英社　700円

人口・家族・生命と社会政策
杉田菜穂 著　法律文化社　5,600円

Excel徹底活用統計データ分析基礎編
宿久洋 他 著　秀和システム　2,400円

参加と協働の地域公共政策開発システム
新川達郎 他 編　日本評論社　3,000円

マテリアルズ国際取引法第2版
高杉直 他 編著　有斐閣　3,000円

日米同盟再考
浅野亮 武蔵勝宏 村田晃嗣 村山裕三 他 執筆　亜紀書房　2,500円

日本人と裁判
川嶋四郎 著　法律文化社　2,500円

演習ノート知的財産法第3版
井関涼子 他 執筆　法学書院　2,200円

C言語プログラミング
三木光範 編　渡部広一 著　共立出版　2,500円

日本企業のマーケティング
林廣茂 他 執筆　同文舘　3,500円

善光寺の中世
鋤柄俊夫 他 執筆　高志書院　4,500円

公共部門の評価と管理
山谷清志 他 編著　晃洋書房　2,800円

経済学入門
石田信博 他 執筆　八千代出版　2,800円

新版まなびの入門監査論
百合野正博 他 編著　中央経済社　2,600円

手続き的共和国の憲法
尾形健 他 訳　勁草書房　2,600円

会社法コンメンタール11 計算等（2）
伊藤靖史 他 執筆　森本滋 他 編　商事法務　4,500円

現代社会集団の政治機能
森裕城 他 編著　木鐸社　3,500円

中高年者の疾病予防・改善のための運動プログラム第2版
坂井智明 竹田正樹 他 著　ナップ　2,200円

SPSSのススメ（2）3要因の分散分析をすべてカバー
竹原卓真 著　北大路書房　5,700円

教会音楽ガイド
越川弘英 他 編　日本キリスト教団　3,600円

宗教のポリティクス
小原克博 著　晃洋書房　2,100円

メディアと文学が表象するアメリカ
石塚則子 田口哲也 他 執筆　英宝社　3,800円

地域福祉論第2版
永田祐 他 執筆　学文社　2,400円

史料債権総則
錦織成史 佐々木典子 他 著　成文堂　20,000円

憲法上の自己決定権
竹中勲 著　成文堂　6,000円

ライフストーリー・ガイドブック
西倉実季 他 執筆　嵯峨野書院　3,200円

「グループ経営」の義務と責任
船津浩司 著　商事法務　7,000円

ベンジャミン・フランクリン、アメリカ人になる
肥後本芳男 他 訳　慶應義塾大学出版会　3,600円

科学時代における人間と宗教
小原克博 他 執筆　法藏館　9,000円

死に至る地球経済
浜矩子 著　岩波書店　500円

市場経済の多様化と経営学
横井和彦 他 執筆　ミネルヴァ書房　2,800円

「経済大国」への軌跡
太田原準 他 執筆　ミネルヴァ書房　3,800円

日本の社会と文化
鰺坂学 尾嶋史章 他 執筆　世界思想社　2,000円

利用者が求める民事訴訟の実践
木下麻奈子 他 執筆　日本評論社　5,600円

愛の労働あるいは依存とケアの正義論
岡野八代 他 監訳　白澤社　4,400円

道州制
佐伯祐二 他 執筆　成文堂　2,800円

国際主義は同志社大学の教育理念のひとつ。現在、本学で学んでいる多くの留学生たちが綴る、その志や同志社大学への思いから国際化・国際交流を考えるシリーズです。

New Discoveries in a New Culture - My First Year at Doshisha

Looking back, the past year since I entered Doshisha as a graduate student have been something of a blur. Between adjusting to the academic rigor of graduate school and adjusting to using Japanese almost exclusively, days and months have passed by in what feels like an instant. Yet these challenges have also yielded countless discoveries that have allowed me to grow both academically and personally in unexpected ways.

When considering where to apply to graduate school, I was particularly attracted to Doshisha's strong emphasis on "internationalism" and "academic freedom." Now having spent some time here, I have felt the influence of these principles on the university's academic and social community. The Japanese Literature department's tutor system, in which each international first year graduate student is assigned an elder classmate to provide assistance, has been extremely valuable resource that demonstrates the depth of the school's commitment to creating an international community.

As I begin the second year of my M.A. program, I must now turn my eyes towards the formidable challenge of composing my thesis. My experiences here, however, have made this prospect a far less intimidating one than it might have otherwise been. While my plans for the future are still uncertain, I am confident that regardless of which path I choose, my time at Doshisha has provided me with invaluable experiences that will stay with me long after I graduate.

Daniel Kelly

異文化・新発見：同志社における一年間の経験

振り返ってみれば、私が大学院生として同志社に入学してから今までの一年間はあっという間に感じる。大学院の学問的な要求とともに、自分の母語を使う機会のほとんどない新生活に慣れようとする中で、「光陰矢の如し」という諺を肌で感じることができた。

願書を出す大学院を考えていた時、まず日本の大学の中でかなり独特な「自由主義」と「国際主義」という教育理念に目を惹かれた。そして、ここで一年間留学生として勉強することを通して、同志社の共同体へこの理念の影響を感じてきた。残念なことに国文学という私の専門分野においては西洋人学者の意見を聞き入れない傾向が未だにあるが、同志社では、むしろ国際的な声が歓迎されている。留学生の博士課程前期1年次生に研究・発表・レポートなどを支援する一人の先輩をあてがうという同志社大学院国文学科のチューター制度に特に感動している。勉強のみならず、異文化の日常生活に関するアドバイスをして下さる私のチューターに心より感謝している。そして、このような制度こそ、同志社大学の国際主義への深い理解を示していると思う。

今年4月から2年次生になり、修士論文の作成に目を向け、当然いろいろな不安も抱えているが、今までの同志社での経験を考えれば安心できる。そして、前期課程を終えてからの進路は未定だが、同志社での経験が今後も役に立つと確信している。

ケリー・ダニエル

2010.4 ～文学研究科 国文学専攻 博士課程（前期課程）に在学

同志社人訪問

京都ユースホステル協会　プロジェクト担当理事

髙田 光治さんに聞く

インタビュアー
木原 千幸 さん
【法学部法律学科4年次生】

今回の同志社人

髙田 光治さん

【1978年工学部工業化学科卒業】

1954年生まれ、兵庫県出身。大学を卒業し京都ユースホステル協会に就職。勤労青少年ホームの指導員を経て、86年、宇多野ユースホステル（ＹＨ）に渉外担当として配属。その立て直しに力を尽くし、ペアレントを経て97年に所長就任。和風デザインのゆったりとした建築様式に改築、2008年にリニューアルオープンした同ＹＨは09年、「世界で最も居心地の良いＹＨ」に選ばれた。

木原●ユースホステル協会に入られたきっかけは何だったのですか。

髙田●それをご説明するには、そもそも大学時代に、修学旅行で訪れる小中学生に京都を案内する、京都学生ガイド協会で活動していたことから話す必要がありますね。私は淡路島の出身で、京都にそれほど強い思いはありませんでした。しかし、いざ来てみると歴史や文化を身近に感じられ、大学にいる間にできるだけ京都のことを知りたいと思うようになりました。1年次の夏休みが終わった頃、京都学生ガイド協会の募集があると知り、京都の町を知るいい機会だと考え参加したのです。ここでのガイドはサークル的な雰囲気もある一方、お金をもらえるアルバイトであり、また現在のインターンシップ的な要素もありました。というのは、協会は学生だけで運営しているので、学校や旅行会社、バス会社から依頼をいただいてガイドをするために、それらを訪ね歩いて営業活動をしなくてはならなかったのです。その経験は、社会人としての仕事にも通じるところがあります。それに、学生たちが交代で担当を決め、手分けしてスケジュールを調整するのですが、当日の担当者が急に都合が悪くなったりすると、すぐに代わりのガイドを手配しないといけない。私も急な代役でよく授業を抜け出して行きました（笑）。同志社だけでなく色々な大学の学生と一緒に運営していましたので、大学の枠を超えて学生同士が協力し合うという貴重な経験もできました。

木原●その経験を活かそうと思われたのですか。

髙田●私は工学部で化学を専攻していて、卒業時には研究室の仲間と同じように工学系の会社を何社か受けたのですが、何かしらの違和感が自分の中にありました。そんな時にちょうど、京都ユースホステル協会の募集があったのです。その頃の協会のスタッフは、最年長でも30代半ばくらいでみんな若かった。枠に縛られずいろんなことができそうだし、旅にも京都にも関わっていけるという思いがあって、ユースホステル協会を志望したのです。

木原●ユースホステル協会に入ってからは、どんなことをしてこられたのでしょう。

髙田●最初の7年間ほどは、勤労青少年ホーム（現在は青少年活動センター）で余暇活動や講座、セミナーの開催などに携わり、その後、この宇多野ユースホステルに移りました。昔は学生の大半は、自分のお金で旅行をする際には安く泊まれるユースホステルを利用していましたが、今の学生はユースホステルを宿泊先の候補にする人が非常に少ない。1973年頃をピークに、ユースホステルの利用者は急速に減っていき、この宇多野ユースホステルも、

1986年にはそれまでの半分以下に落ちてしまっていました。しかも、これからユースホステルとして存続していくためには、世界中から旅行者を呼び込まなければならないのに、当時の宇多野ユースホステルの建物は老朽化し、バリアフリーにもなっていませんでした。一方でその頃、ヨーロッパのユースホステルを見学するチャンスを得て、オランダ、フランス、スイス、スペイン、イギリス、ベルギーなどを回ったのですが、海外から見ると私たちのユースホステルは施設的にも取り組みの面でも十分ではないと痛感し、海外にも通用するユースホステルをいつか作りたいと強く思っていました。その後、粘り強く交渉を繰り返し、足掛け10年以上を費やして、2008年にようやく新しい建物に建て替えることができたのです。その時基本方針としたのは、100年使える建物にすること。100年経っても未来の資産、地域の資源となるようなユースホステルを目指したのです。そして改築して1年後、2009年に最も快適なユースホステルということで国際連盟から表彰をいただきました。

木原●ユースホステルクラブの部長を務め、私もたくさんのユースホステルに泊まりましたが、ここは本当に素晴らしいと思います。ユースホステルは泊まること自体がエンターテインメントですから。

髙田●ユースホステルの魅力は、見知らぬ他人と生活を共にすることです。ホテルのような快適さはなくても、初対面同士で話すことがとても楽しい。たとえば韓国の学生は日韓関係について日本の学生と議論したいと言いますが、日本では世界史でも近代のことはほとんど勉強しないので、お互いの認識に大きなギャップがあります。そこで実際に韓国の学生と話をすると、彼らの日本に対する考え方がよくわかります。国と、そこで生活する人たちを理解して、その国とどう付き合うかを経験として学ぶのは大事なことです。

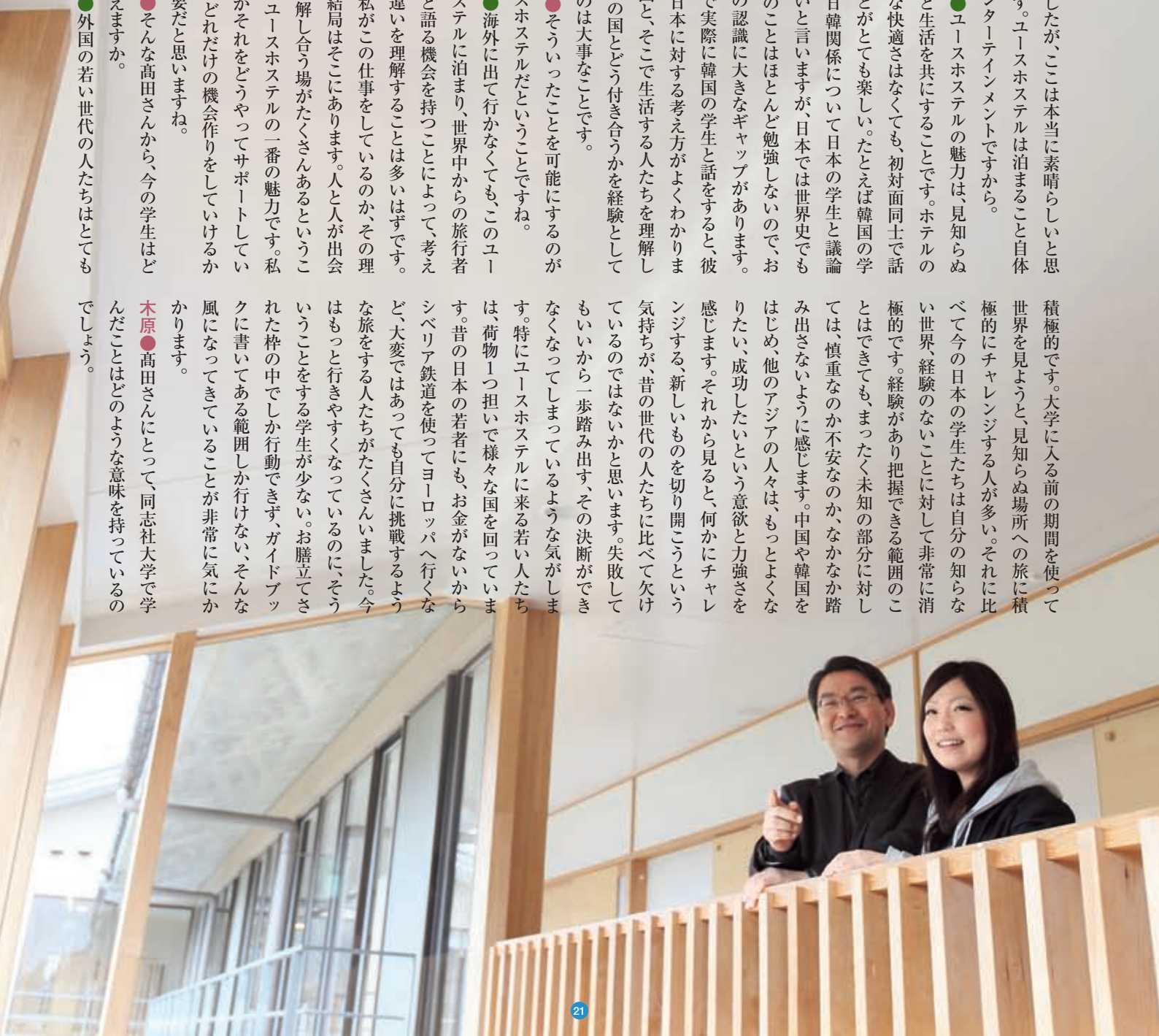
木原●そういったことを可能にするのがユースホステルだということですね。

髙田●海外に出て行かなくても、このユースホステルに泊まり、世界中からの旅行者たちと語る機会を持つことによって、考え方の違いを理解することは多いはずです。なぜ私がこの仕事をしているのか、その理由も結局はそこにあります。人と人が出会い、理解し合う場がたくさんあるということが、ユースホステルの一番の魅力です。私たちがそれをどうやってサポートしていくか、どれだけの機会作りをしていけるかが重要だと思いますね。

木原●そんな髙田さんから、今の学生はどう見えますか。

髙田●外国の若い世代の人たちはとても積極的です。大学に入る前の期間を使って世界を見ようと、見知らぬ場所への旅に積極的にチャレンジする人が多い。それに比べて今の日本の学生たちは自分の知らない世界、経験のないことに対して非常に消極的です。経験があり把握できる範囲のことはできても、まったく未知の部分に対しては、慎重なのか不安なのか、なかなか踏み出さないように感じます。中国や韓国をはじめ、他のアジアの人々は、もっとよくなりたい、成功したいという意欲と力強さを感じます。それから見ると、何かにチャレンジする、新しいものを切り開こうという気持ちが、昔の世代の人たちに比べて欠けているのではないかと思います。失敗してもいいから一歩踏み出す、その決断ができなくなってしまっているような気がします。特にユースホステルに来る若い人たちは、荷物1つ担いで様々な国を回っています。昔の日本の若者にも、お金がないからシベリア鉄道を使ってヨーロッパへ行くなど、大変ではあっても自分に挑戦するような旅をする人たちがたくさんいました。今はもっと行きやすくなっているのに、そういうことをする学生が少ない。お膳立てされた枠の中でしか行動できず、ガイドブックに書いてある範囲しか行けない、そんな風になってきていることが非常に気にかかります。

木原●髙田さんにとって、同志社大学で学んだことはどのような意味を持っているのでしょう。



髙田●環境がとてもよかったですね。京都御所と相国寺に囲まれていますから。相国寺ではよく昼寝をしましたが、そういった時間を持てたこともよかったと、卒業してから特に思いますね。また、同志社大学の雰囲気は本当に自由だったので、学業以外に自分の興味を持ったことが比較的柔軟にできました。勉強でも他のことでも、思ったことをできたという思いがあるので、社会に出てからも、同志社大学の４年間が自分のベースの一部であると感じています。

木原●髙田さんのお仕事での信条は何ですか。

髙田●常に心がけているのは、今だけでなく将来につながる取り組みや仕事をするということです。この建物を建てた時も、考えたのは快適な宿泊施設にすることだけでなく、50年後、１００年後に価値のあるものとして残すためには何をしなければならないのかということです。今この場だけで完結してしまうのではなく、未来につなげるという思いですね。これは私の個人的な思いですが、現在ある町並みで世界文化遺産の認定を受けようとする考え方もありますが、50年後に世界文化遺産の認定を受けられるような町を、これから50年かけて作って行こうという取り組みの方が大切なのではないかという気がするのです。

木原●今を見るだけでなく、過去も未来も見て取り組んで行くということですね。

髙田●同志社の伝統だってそうです。１００年以上の歴史の中で、先輩がたくさんの思いを後輩に託し、それが引き継がれていく。様々な試行錯誤を繰り返しながら、未来の同志社はどうあってほしいかという思いがつながっていけば、50年、１００年経った時にいい大学だったなと思えるようになっていくのではないかという気がします。

木原●具体的にこれから挑戦していきたいことや、目標はありますか。

髙田●まずはこのユースホステルが世界的にもっと評価されること。京都に宇多野があるから日本を訪れるほど、世界から注目されるユースホステルになるように、環境、文化、出会い、あらゆる分野においてのアピールを続けていきたいですね。もう1つは、日本のユースホステルを元気にすることです。今ユースホステルは活気を失っていて、ユースホステルを使って旅行をする人も減っています。ですが私は、ユースホステルそのものが魅力を失ったとは思っていません。地方のユースホステルで努力している関係者の方々が希望を持てるような、こんな風にすればもっと目を向けてもらえるのではという成功モデルの1つに、この宇多野や京都のユースホステルをしていきたいのです。まだまだ道のりは遠いですが。

木原●これから社会人として仕事をしていくうえで、とても役に立つお話を伺うことができました。本日はどうもありがとうございました。

INTERVIEWER

木原 千幸さん
法学部法律学科4年次生

入学してすぐ、友人に誘われて遊びに行ったのがきっかけでユースホステルクラブに入部。2年次に副部長、3年次には部長を務めた。4月からは近畿日本鉄道で社会人としての第一歩をスタート。

未来へ繋げていく意識を持つことが大事。

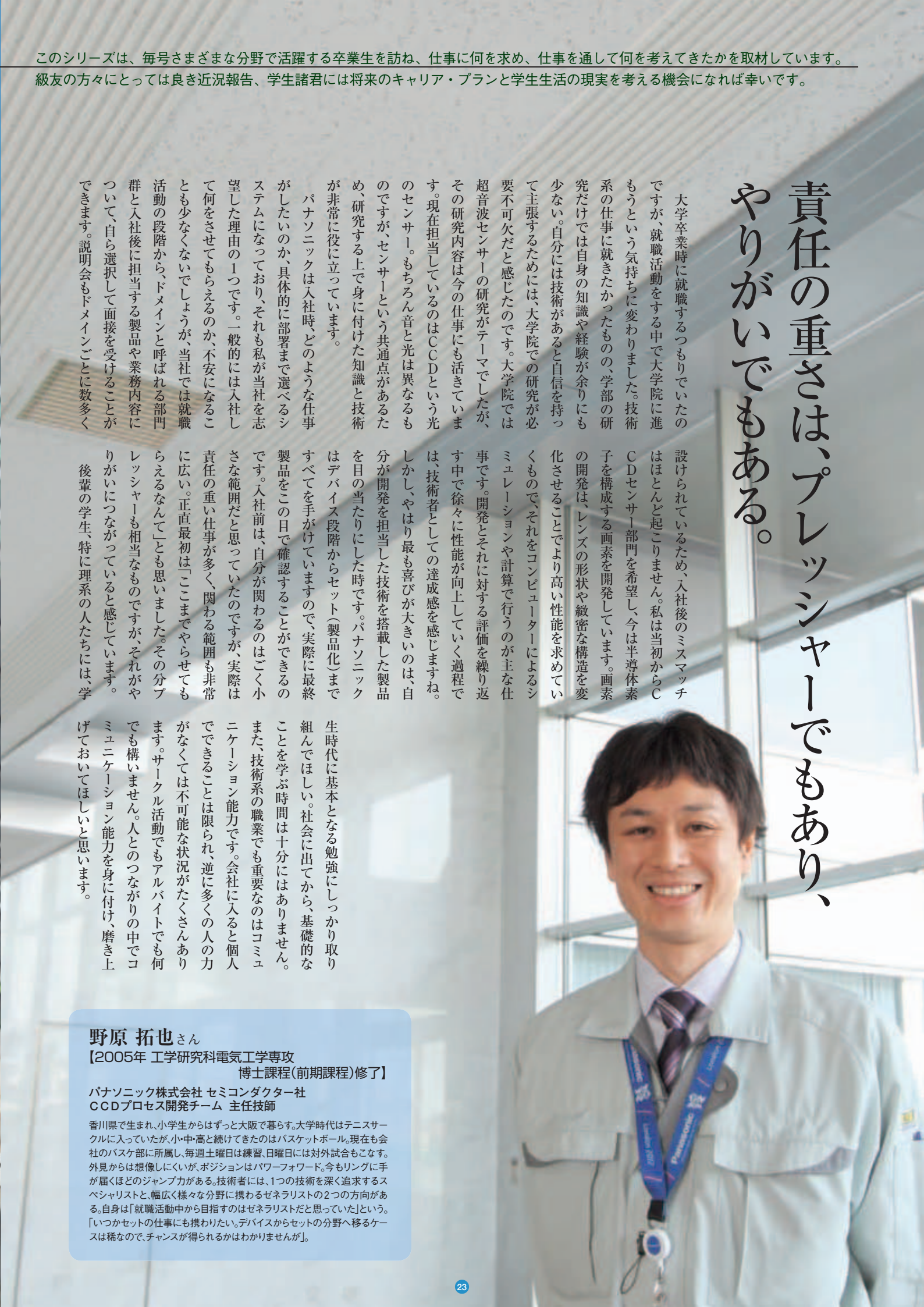
最初は人見知りでしたが、ユースホステルクラブに入ってからはいろんな人々との出会いが楽しいと感じるようになりました。それは紛れもなく、私自身の財産ですね。自分の足で歩き、目で見て、肌で感じるということを最も満喫できるのが学生時代ですから、その特権を生かしきらないともったいない。家と学校の往復では絶対味わえない経験ができた４年間は、とても充実した時間でした。50年、100年先の未来を見るべきという髙田さんのお話を聞き、自分も現状を見るだけに留まらず、過去、現在、未来と繋がっていく長期的なスパンで物事を見ることを意識して、仕事をしていきたいと感じました。

責任の重さは、プレッシャーでもあり、やりがいでもある。

大学卒業時に就職するつもりでいたのですが、就職活動をする中で大学院に進もうという気持ちに変わりました。技術系の仕事に就きたかったものの、学部の研究だけでは自身の知識や経験が余りにも少ない。自分には技術があると自信を持って主張するためには、大学院での研究が必要不可欠だと感じたのです。大学院では超音波センサーの研究がテーマでしたが、その研究内容は今の仕事にも活きています。現在担当しているのはCCDという光のセンサー。もちろん音と光は異なるものですが、センサーという共通点があるため、研究する上で身に付けた知識と技術が非常に役に立っています。

パナソニックは入社時、どのような仕事がしたいのか、具体的に部署まで選べるシステムになっており、それも私が当社を志望した理由の1つです。一般的には入社して何をさせてもらえるのか、不安になることも少なくないでしょうが、当社では就職活動の段階から、ドメインと呼ばれる部門群と入社後に担当する製品や業務内容について、自ら選択して面接を受けることができます。説明会もドメインごとに数多く設けられているため、入社後のミスマッチはほとんど起こりません。私は当初からCCDセンサー部門を希望し、今は半導体素子を構成する画素を開発しています。画素の開発は、レンズの形状や緻密な構造を変化させることでより高い性能を求めていくもので、それをコンピューターによるシミュレーションや計算で行うのが主な仕事です。開発とそれに対する評価を繰り返す中で徐々に性能が向上していく過程では、技術者としての達成感を感じますね。しかし、やはり最も喜びが大きいのは、自分が開発を担当した技術を搭載した製品を目の当たりにした時です。パナソニックはデバイス段階からセット(製品化)まですべてを手がけていますので、実際に最終製品をこの目で確認することができるのです。入社前は、自分が関わるのはごく小さな範囲だと思っていたのですが、実際は責任の重い仕事が多く、関わる範囲も非常に広い。正直最初は「ここまでやらせてもらえるなんて」とも思いました。その分プレッシャーも相当なものですが、それがやりがいにつながっていると感じています。

後輩の学生、特に理系の人たちには、学生時代に基本となる勉強にしっかり取り組んでほしい。社会に出てから、基礎的なことを学ぶ時間は十分にはありません。また、技術系の職業でも重要なのはコミュニケーション能力です。会社に入ると個人でできることは限られ、逆に多くの人の力がなくては不可能な状況がたくさんあります。サークル活動でもアルバイトでも何でも構いません。人とのつながりの中でコミュニケーション能力を身に付け、磨き上げておいてほしいと思います。



野原 拓也さん
【2005年 工学研究科電気工学専攻
博士課程(前期課程)修了】

パナソニック株式会社 セミコンダクター社
CCDプロセス開発チーム 主任技師

香川県で生まれ、小学生からはずっと大阪で暮らす。大学時代はテニスサークルに入っていたが、小・中・高と続けてきたのはバスケットボール。現在も会社のバスケ部に所属し、毎週土曜日は練習、日曜日には対外試合もこなす。外見からは想像しにくいが、ポジションはパワーフォワード。今もリングに手が届くほどのジャンプ力がある。技術者には、1つの技術を深く追求するスペシャリストと、幅広く様々な分野に携わるゼネラリストの2つの方向がある。自身は「就職活動中から目指すのはゼネラリストだと思っていた」という。「いつかセットの仕事にも携わりたい。デバイスからセットの分野へ移るケースは稀なので、チャンスが得られるかはわかりませんが」。

やりたいことがあれば、チャンスを獲得し、自己主張すべき。

海外の鉄道事業者や政府組織に、車両とその運行管理システム、信号・変電システムなどの鉄道システム製品を販売するのが、今の私の仕事です。商社などを通して間接的に製品を販売することもあれば、直接海外のお客様に営業することもあります。新規鉄道建設の場合、仕様書を読んで入札書類を作る、納期や支払いなどの条件を整える、入札金額を取りまとめるといったことに膨大なエネルギーを費やします。落札後は契約のためのネゴシエーション。海外での契約は細かい契約条件の交渉が必須で、国内のような暗黙の了解は通用しません。長い契約交渉に四苦八苦しますが、海外には一からチャレンジする要素が強いのです。前例もなければ当然正解を示してくれる人もいませんが、逆に自分らしさを前面に出せますし、試行錯誤の末につかんだ成功の喜びは大きいですね。

商社の営業をしていた父の影響もあり、学生時代から海外営業とインフラ整備に魅力を感じてこの仕事を志望。実際に自分が携わるようになり、1つひとつの現場は泥臭く、地道な努力の積み重ねがあることを実感しました。自分の力はごくわずかなものにすぎませんが、背景にはこれまでに多くの先輩たちが積み重ねてきた努力があります。世界の大都市と比べても、東京の交通網は極めて優れた鉄道システムです。日本の丁寧な「ものづくり」は、高価格がネックとなり、コスト面での競争が厳しい側面もあります。しかし、良いものを作ることは、すなわち人々の幸福を実現する方法の1つであるという信念は、決して揺るがないのだと感じます。気持ちが折れてしまいそうなプレッシャーや困難と戦いながらも、現場に携われることの喜びがあり、それをやりがいと思えるからこそ頑張れるのです。

入社して3年間、関西支社で国内営業を経験したことは、私にとって大きな財産です。海外では組織単位で動きますが、国内では身1つでお客様のところへ足を運び、1対1で話をします。他社のシェアが大勢を占めるエリアに飛び込み、お客様の信頼を得て商機が広がったこともありました。そういった経験のすべてが、今の海外営業の基盤になっています。ですから、後輩の学生には、就職したら初めの3年ほどで仕事を判断してほしくないですね。私はその3年間に自費で語学の勉強をし、自分で仕事をつくって海外出張をするなど、自ら海外志望をアピールしていきました。やりたいことがあるなら、まずその時課せられた仕事を精一杯すること。その上でチャンスを手に入れる努力と自己主張をするべきです。そしてもう1つ、学生時代に海外の異文化を経験してほしい。居心地のいい空間に留まっていては、そこで得られる以上の経験は絶対にできないのですから。

谷岡 史子さん
【2002年 法学部政治学科卒業】
株式会社日立製作所 社会・産業インフラシステム社
海外交通営業本部 海外第1部 主任

5歳から10歳まで、父親の転勤に伴い中国返還前の香港で生活。同志社大学入学後も3年次から4年次にかけての1年間、交換留学で香港中文大学に通う。強い海外志向は、父親の影響とともにこうした香港での経験が素地にある。就職活動を始めた当初は「表現することに魅力を感じて、自分の体験や見聞を人に伝える仕事が面白そう」とマスコミにも興味があった。だが、日立製作所に入社してからは「記事を書かれる側に立ってみると、活字になる前の情報を知っているほうが、実は面白いのではと思うようになりました」。大学時代は男性に混じってサッカーを楽しみ、4年次には大学のクインフットリーグで女子プレーヤーを集め、女子限定の1dayトーナメントを開催したことも。やりたい事には挑戦する、その姿勢は今も変わらない。

E M E N T

各詳細は、学内掲示板やHPなどでご確認ください。

熊本キャンプ参加者募集

同志社開校の翌年、熊本洋学校の卒業生や在校生約40人が同志社に入学しました。彼らはのちに日本のキリスト教史上「熊本バンド」と呼ばれることになる秀才揃いで、「同志社のもうひとつの源流」を作ったと言えるほどの強烈な個性をもつ存在です。この熊本キャンプでは、彼らの生き様や熊本と同志社の関わりを、事前学習や現地での研修を行うことによって学び、同志社を見つめ、自らを省みる時間をもつことを目指しています。

【実施期間】9月7日(水)～9日(金)の2泊3日
【募集人数】20人程度　【参加費用】20,000円
【説明会】
京田辺　5月13日(金)13時30分～
　　キリスト教文化センター講座室(夢告館西隣・キリスト教文化センター内)
今出川　5月20日(金)17時～
　　キリスト教文化センター集会室(クラーク記念館1階)
【お申し込み・お問い合わせ先】
今出川校地キリスト教文化センター　TEL:075-251-3320
京田辺校地キリスト教文化センター　TEL:0774-65-7370

同志社フェア in 函館

全国の卒業生との絆をよりいっそう強化するため、「同志社フェア in 函館」を開催します。同志社大学の原点とも言える「新島襄の脱国の地」に大学関係者と卒業生が一堂に会し、新島先生の想いを改めて心に刻む機会とします(在校生父母、市民も歓迎いたします)。
※詳細は確定次第、大学ホームページなどでお知らせします。

●全国同志社卒業生との集い(主催:同志社大学)
【日時】6月12日(日) 13:30～19:00
【場所】ロワジールホテル函館(JR函館駅徒歩1分)
【内容】大学長による近況報告、大八木淳史氏による講演、新島襄と函館に関する講演、交流交歓会など※OBバンドによる演奏もあります。※交流交歓会のみ有料(3千円)となります。

●新島足跡ツアー －ゆかりの地を訪ねて－(有料)
(主催:株式会社JTB西日本、後援:同志社大学)
【日時】6月13日(月) 10:30～17:00(神学部・本井康博教授が同行のうえ、解説)
【訪問先】新島襄海外渡航の碑、新島襄ブロンズ像、五島軒(昼食)、山ノ上大神宮(函館八幡宮)、函館千歳教会、遺愛学園、ハリストス正教会、五稜郭

●映画上映『大地の詩 －留岡幸助物語－』(無料)(主催:学校法人同志社)
【日時】6月13日(月)18:30～20:40
【場所】ロワジー ルホテル函館(JR函館駅徒歩1分)

●「新島襄海外渡航の地碑」碑前祭(主催:学校法人同志社、後援:函館市)
【日時】6月14日(火)11:00～11:40　【場所】函館市大町11「新島襄海外渡航の地碑」前
【内容】讃美歌合唱、聖書朗読ならびに祈祷、式辞、挨拶、カレッジソング合唱、祝祷、献花など
【お問い合わせ先】校友・父母課　TEL:075-251-3009

2011年度ホストファミリー募集 ～異文化に触れ、心の国際交流を～

日本語・日本文化教育センターでは、夏休みを利用した短期プログラムで来日する留学生のホストファミリーを募集しています。海外からの留学生をサポートし、家族の一員として受け入れていただける方、興味をお持ちの方はぜひお問い合わせください。

【受入学生・時期】
①ハーバード大学サマースクールに参加する留学生　2011年6月6日～7月29日(予定)
②アメリカ政府奨学金プログラム(CLS)に参加する留学生
　2011年6月13日～8月7日(予定)※②については、A:6月13日～7月9日、B:7月9日～8月7日の受入期間でも可能ですのでご相談ください。ただし応募者多数の場合、全期間受入可能な方を優先させていただきます。
【条件・環境】・今出川キャンパスまで片道約1時間以内　・4畳半以上の個室一部屋の提供(和室、洋室は不問ですが、寝具・勉強机、冷房の提供も併せてお願いします)　・朝・夕2食の提供
【謝礼】2カ月間の謝礼として12万円
【その他】・1ホストファミリー1学生のみ　・インターネットが利用できる環境が望ましい
【お問い合わせ先】※資料をお送りいたします
日本語・日本文化教育センター　国際教育課
TEL:075-251-3257　E-mail: ji-nbn@mail.doshisha.ac.jp

「今出川校地・京田辺校地 キャンパスツアーガイド募集」

キャンパスツアーは、研修を受けた同志社大学の在学生が、受験生や一般の方とともにキャンパスを巡りながらガイドし、同志社大学の魅力を伝える仕事です。普段あまり入ることがない重要文化財や研究施設の紹介、また、建学の精神を伝えることを通して"母校同志社"の新発見にもつながります。キャンパスツアーガイドは、授業の合間を利用したアルバイト(時給880円)としても魅力です。主に履修する校地が今出川・京田辺のいずれかは問いません。積極的にご応募参加ください。
※ガイドする校地と主に履修する校地が異なる場合は、交通費が支給されます。
【お問い合わせ先】
今出川校地　(株)同志社エンタープライズ継志館事務所　TEL:075-251-3043
京田辺校地　京田辺校地総務課　TEL:0774-65-7010

Hardience(ハーディー友の会)メンバー募集中！

今出川校地学生支援課では、より多くの方に、寒梅館のイベントをきっかけとして本学および本学学生の活動に関心を持っていただくために、私たちとともに催しを盛り上げていただける方を募集しております。今出川校地学生支援課窓口にて、随時受け付け中です。
【対象】一般・他学生(本学学生・教職員は対象外とさせていただきます)
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3270

アッセンブリーアワー学生企画募集

各界でご活躍の方々をお招きし、幅広い知識と教養を得られる機会として、アッセンブリーアワーを設けています。講演会、コンサート、演劇、映画、作品展など多彩な形態で開催しています。皆さんの知識と熱意によってプロデュースする「アッセンブリーアワー学生企画」を募集します。
【対象】本学学部生　【募集する企画の実施時期】開講期間中
【お申し込み】4月18日(月)～5月20日(金)
※採用については5月下旬のプレゼンテーション大会にて選考・決定します。
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3270
※4月13日(水)京田辺校地、14日(木)今出川校地で、それぞれ説明会を開催します。

あなたのやる気、同志社ローム記念館プロジェクトで！

同志社ローム記念館では、IT、メディアテクノロジーの活用やデジタルコンテンツの作成をテーマに、毎年1年間のプロジェクトが推進されています。同志社大学・女子大学の学生を中心に、学部学科を越えて多様なメンバーで構成されたプロジェクトチームによる活動だから、刺激も学びもいっぱい。現在、2011年度のプロジェクトに参加する学生・生徒を募集しています。5月には、プロジェクトメンバーを対象にした適性検査やワークショップなど、活動のスタートをスムーズにするためのプログラムも用意しています。
プロジェクトの一覧や説明会などの情報、メンバー申込票のダウンロードは、ローム記念館ホームページ(http://rohm.drm.doshisha.ac.jp/)からどうぞ。
●メンバー募集に関するイベント
4月6日(水)12:30～13:00　ローム記念館劇場空間「ローム記念館プロジェクト説明会」
4月21日(木)17:00～18:30　ローム記念館劇場空間「スタートアップ報告会」
※この他にも、プロジェクト個別の説明会などがあります。
【お問い合わせ先】京田辺校地総務課(ローム記念館事務室)　TEL:0774-65-7800
　E-mail:jt-rohm@mail.doshisha.ac.jp

障がい学生支援制度 サポートスタッフ大募集！

同じキャンパスで学ぶ障がい学生(Challenged)のサポートスタッフを募集しています。初めてでもできることはたくさんありますので、ぜひスタッフに登録して、パソコン通訳・ノートテイク・ビデオ字幕付け・代筆・車椅子介助などの活動にご協力ください。その他イベントも充実しています。詳しくは障がい学生支援室HP(http://challenged.doshisha.ac.jp/)で随時お知らせしています。
【お申し込み・お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課　障がい学生支援室　TEL:0774-65-7411
　今出川校地学生支援課　障がい学生支援室　TEL:075-251-3273
E-mail:jt-care@mail.doshisha.ac.jp

ANNOUNC

新入生歓迎・筍掘り＆焚き火の会

キャンパスに群生する筍と竹を使って、竹筒ご飯作りに挑戦します。2年次生以上の参加も大歓迎です。学部を超えた友人づくりのチャンスですよ！
【日時】4月16日(土)13:30　リザーブ1（紫苑館西隣、恵喜館前広場）集合
※汚れてもよい服装でご参加ください。雨天中止、当日朝10時の時点で判断します。
【お申し込み】食材確保のため、事前申し込みにご協力ください(当日参加も歓迎)。
【お申し込み・お問い合わせ先】
S-Cube（京田辺校地学生支援課・嗣業館1F）　TEL:0774-65-7021

新入学生対象 フレッシャーズキャンプ2011参加者募集！

同級生、上級生＆教職員スタッフとふれあう1泊2日。
【日程】4月23日(土)～24日(日)　【定員】80人(学部新入学生対象)
【場所】同志社びわこリトリートセンター　【申込期間】4月5日(火)～19日(火) ※先着順
3月に郵送されている申込書に記入の上、両校地いずれかの学生支援課へ。定員になり次第、受付を終了します。
【お申し込み・お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課　TEL:0774-65-7021
今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3270

新入学生歓迎特別講演会　尾木直樹氏

「尾木ママ」でおなじみ、教育評論家の尾木直樹さんから温かいメッセージをいただきます。
【日時】4月15日(金)17:00～（予定）【場所】今出川校地　寒梅館ハーディーホール
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3270 ※在学生も入場可
※京田辺校地でも特別講演会を実施する予定です。詳細はHP、立看板などでご確認ください。

bふらっとプログラム

京田辺校地ハローホール(多目的ホール)では、コンサートや映画上映などの文化プログラムを行います。入場無料。
●**4月20日(水)**　映画上映「シュレック フォーエバー」
12:00～／15:00～／17:00～ 3回上映
●**5月17日(火)**　ブラジリアンmusicコンサート「高尾典江&cocorone」　17:15～
【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課　TEL:0774-65-7413

クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールでは、映画史に残る名作を中心に様々なイベントを開催します。
【会場】寒梅館クローバーホール(地階)【料金】入場無料
●**4月19日(火)**《新島襄と同志社》
17:00～『新島襄』
18:00～『西部戦線異状なし』監督:ルイス・マイルストン
●**4月26日(火)**《新島襄と同志社》
17:00～『神の道化師、フランチェスコ』監督:ロベルト・ロッセリーニ
18:30～『ナサリン』監督:ルイス・ブニュエル
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3270
※内容は都合により変更となる場合があります。詳細はお問い合わせください。

WOT(ワット)="What's on Thursdays!"

「木曜日には何かがある！」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。
【会場】寒梅館ハーディーホール　【料金】本学学生・教職員はすべて無料
●**4月21日(木)**《新島襄と同志社》映画『大地の詩～留岡幸助物語～』
10:30／14:00／17:30　※16:10～講演あり 一般有料
●**4月28日(木)**《新島襄と同志社》映画『カサブランカ』
10:30／13:30／16:00／18:30 一般有料
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3270
※内容は都合により変更となる場合があります。詳細はお問い合わせください。

♪観に行こう聴きに行こう♪ —学生団体4月～5月の活動予定—

【寒梅館ハーディーホール】
●5月3日(火)　ギタークラブ「同志社ギタークラブ・立教大学スペインギタークラブ ジョイントコンサート」　16:30～（16:00)予定 無料
【寒梅館クローバーホール】
●4月7日(木)　交響楽団「新入生歓迎コンサート」　時間未定　無料
●4月16日(土)　One Voices「新入生歓迎ライブ」　13:00～予定　無料
●4月23日(土)　F.B.I.「新歓上映会」　12:30～（12:00)無料
【京田辺校地ハローホール](時間は予定)
●4月8日(金)　音楽研究会「新歓ライブ」　11:00～
●4月15日(金)　邦楽部「新入生歓迎演奏会」　12:40～
●4月25日(月)　喜劇研究会「お笑いライブ」　13:00～
●4月27日(水)、28日(木)　F.B.I「新歓上映会」　12:30～
●5月7日(土)　One Voices「サマーライブ二次オーディションライブ」　時間未定
●5月24日(火)　喜劇研究会「お笑いライブ」　13:00～
【学外】
●5月28日(土)　マンドリンクラブ「第158回定期演奏会」
高槻現代劇場中ホール(阪急京都線「高槻市駅」から徒歩5分、ＪＲ京都線「高槻駅」から徒歩12分)　18:30～（18:00）　500円
【新町別館小ホール】
●4月下旬　第三劇場「新入生歓迎公演」
18:00～（17:30）　入場料は未定、新入生無料

応援に行こう！～体育会試合日程

開催日時、開催場所、対戦校、料金等は変更されることがあります。
【フェンシング部】
●**4月16日(土)、17日(日)　フルーレリーグ**
会場:大山崎体育館(JR山崎駅、阪急大山崎駅より徒歩30分)　入場無料
●**5月7日(土)、8日(日)　サーブルリーグ**
会場:大阪市立体育館(地下鉄朝潮橋駅より徒歩5分)　入場無料
●**5月21日(土)、22日(日)　エペリーグ**
会場:瀬戸市民体育館(瀬戸駅より徒歩30分)　入場無料
【水泳部】
●**4月5日(火)～10日(日)　第87回日本選手権水泳競技大会**
会場:東京辰巳国際水泳場

学生保健部会　献血・アルコールパッチテスト

【献血】
今出川校地　4月20日(水)10:00～16:00（明徳館ラウンジ前）
京田辺校地　4月21日(木)10:00～16:00（ラーネッド記念図書館裏）
【アルコールパッチテスト】※定員に達し次第終了。
今出川校地　4月4日(月)、6日(水)9:00～16:00（尋真館1階ラウンジ）
京田辺校地　4月2日(土)、4日(月)、5日(火)、6日(水)9:00～16:00（知真館3号館入口）
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3281
京田辺校地学生支援課　TEL:0774-65-7435

第29回函館キャンプ参加者募集

創立者・新島襄が1864年に国禁を犯して脱国した地、北海道函館市を5泊6日の日程で訪れます。新島襄の生き方に触れ、人と人とのふれあいの中で自分自身を見つめ直そうという趣旨で行われます。学生が主体となって作り上げるプログラムです。
【実施期間】　8月22日(月)～27日(土)※出発前に5回程度のミーティングを行います。
【お申し込み】4月18日(月)～5月20日(金)　【参加費用】29,000円
【お問い合わせ】今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3270
※4月13日(水)京田辺校地、14日(木)今出川校地で、それぞれ説明会を開催します。

2011年4月1日(4・6・10・12月年4回)発行
発行　同志社大学　企画部広報課

〒602-8580　京都市上京区今出川通烏丸東入　TEL 075-251-3120　FAX 075-251-3080
E-mail jk-koho@mail.doshisha.ac.jp

PRINTED WITH SOY INK

My Purpose 挑戦する人

独学で絵画を始め、数多くの展覧会で入賞

～たくさんの人に愛される絵を一生描き続けたい～

澁谷 侑希さん
【文化情報学部2年次生】

絵を描き始めたのは小学4年生頃です。誰に教わったわけでも、絵画教室に通ったわけでもなく、まったくの独学です。中学でも自分なりの方法で絵に取り組みたいと考え、美術部には所属せず、美術の実績では全国トップクラスの兵庫県立香寺高校に入学したのを機に、美術工芸部で本格的に先生や先輩から指導を受けるようになりました。校内の展覧会に2万人もの方が訪れるほどの高校でしたので、芸術に対する姿勢にも厳しく、3年間はひたすら作品を制作し、休日はお正月と試験期間くらい。それまで絵を描くことを単純に楽しんでいましたが、その頃に作品を仕上げることの辛さも知りました。ただ、絵の実力は高校時代で飛躍的に伸びました。初めて展覧会で賞をもらったのは高校1年の時で、全国高校生ポスター甲子園の奨励賞でした。今までで一番嬉しかったのは、第8回全国高校生国際美術展でグランプリを受賞した時ですね。絵画ではなく、接着剤で固めた発泡スチロールを削った彫刻作品のテーマは「見る」。高校生が抱える不安や悩みを、しっかりと見つめる姿を表現しました。この美術展での入賞は、香寺高校では初めてのことでした。

大学を選ぶ際、美術大学へ進むことも考えましたが、大学はもちろん学部や学科の特徴を詳しく調べ、同志社大学の文化情報学部を選びました。美大でしか学べないこともありますが、絵を描くだけに留まらずに視野を広げたかったのです。京都ＹＭＣＡ国際ボランティアリーダー会での活動では、実際に多くのことを経験できていますね。美術展に向けた個人での制作活動もあり、とても多忙な毎日です。また、大学で視覚効果を学んだことにより、感性や経験だけに頼ることなく、より効果的に伝えるにはどのような配置で、どんな色を使うべきかなど、自分の作品をよりロジカルに捉えることができるようになったと感じます。好きな学問が絵に活きる、この学部環境は貴重だと思いますね。

卒業後は、アーティストを生業にしようとは考えていません。アートをプロデュースする側として絵画に関わることで、アートの持つ力を様々な方法で発信していきたいのです。ですが、私は本当にたくさんの方々に支えられて絵を描いていますので、作品を一人でも多くの方に見ていただき、感謝を伝えたい。過去に描いた高校に近い商店街を活気づける看板や、地元のお寺の絵馬なども、その気持ちの表れです。1つの作品に対して真剣に取り組むこと、そして、人から愛される絵を描くこと。この信条をどんな時でも忘れずに、一生絵筆は離さないでいたいと思っています。